

# 教育会だより

7

コロナ禍の中でも力強く歩んだ令和2年度諏訪教育会

「より据える より深める より開く」～救心(求新・求真):求める心に出会いあり～

## 第5回社員総会が行われました

3月4日(木)、今年度のまとめとなる第5回社員総会が行われました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止とせざるを得ない事業がある中、工夫と改善を重ね、形を変えて歩んだ一年間。諏訪教育会の事業のあり方を見つめた一年でもありました。社員の先生方には、年度末のご多用の中、定刻にご参集いただき感謝申し上げます。

小林 高志会長の挨拶より



求める心に出会いありの<救心>。心の中には、より新しさと真なるものも含め「より据える・より深める・より開く」のテーマのもと、コロナ禍に配慮しながら救心をもって先生方と共に歩んできた。諏訪教育会館の入り口に立つ立川義明先生の三人群像「救心」。そこに込められた「窩」の概念。空間を大事にされたということが書かれている。現在、茅野市美術館にて3月25日までの常設展の中で立川先生の作品が飾られている。ご覧いただければ、立川先生の心意気やその美しさを感じられると思う。本日は今年度をまとめる会となる。総括ということで忌憚のないご意見をいただければと思う。

今回の社員総会では、[令和3年度の諏訪教育会事業計画]と[令和3年度収支予算書]が承認されました。続いて令和元年度公益社団法人諏訪教育会事業報告が発表されました。

各部の報告より (抜粋) 詳細は、「事業報告書」をご覧ください。

### (1)教科等研究部：植松部長

- ・現場に活かす研究の提言や技能普及と地域に開く活動を実施  
「新学習指導要領の趣旨に基づく実践研究」「会員や地域に開かれた委員会活動」「中核的な研究会・研修会」
- ・質の高い授業実践を目指す
- ・委員会が企画する研究授業への参加意識の啓発と参加し易い環境作りに努める

### (2)専門部：内藤部長

- ・地域の方と連携を図り、児童・生徒に生きる活動を大事にする
- ・公益化を考え、地域とのつながりのパイプ役となり多くの方に知っていただくよう発信する

### (3)研修部：小野部長

- ・各種研究会への助成の継続 ・「県外視察」「地域研修」への助成の継続
- ・本年度、コロナ禍でなかなか進まなかった地域研修は、来年度に期待したい

### (4)広報部：唐澤部長

- ・「特集」「特別企画」等内容の検討
- ・伝統・編集方針の基本を継承しつつ、さらに「公益化」の点で内容の充実に努める

### (5)諏訪季節大学部：矢島部長

- ・来年度 第377回の講師は、池上 彰氏 公益社団法人化10周年記念講演会を兼ねる

### (6)自然調査研究部：藤森部長

- ・児童生徒の自然に対する関心・意欲を高め、科学的な見方・考え方を育てることに視する事業を行う
- ・5つの委員会はそれぞれテーマ等を決め、調査研究を継続して進めていく

### (7)郷土調査研究部：小林部長

- ・「諏訪の歴史ハンドブック」(古代中世近世編)の執筆・検討
- ・既刊の「歴史ハンドブック(考古編、近現代編)の頒布活動継続
- ・登山の菜「八ヶ岳」第10版、郡内外に早い時期から購読斡旋を進める

(8)諏訪教育博物館部：向川原部長

- ・4～6月上旬休館期間があったが、本年度も来館者数1500人を超えた PRを継続する
- ・館内リニューアル、トイレの改修を行った

(9)特別部：池田部長

- ・「会員アンケート」を実施し、「あり方提案」を行った
- ・令和3年4月 社員総会で「公益化10周年リーフレット」を配布

協議より 小林会長より「あり方・沿革史委員会」を設置する件についての説明がありました。

令和4年度、諏訪教育会創立140周年を迎える。その中で、100周年から120周年までの沿革が冊子にまとめられている。そこで、主な活動として121周年から140周年までの沿革史を冊子にまとめる140周年のあり方を考える、ふたつを考えている。これらのことから、令和3年度から4年度の2年間、特別部に「あり方・沿革史委員会」を設置し活動を推進する。

【社員からの意見】

- ・長い伝統のある教育会について、改めて深く考える場を多くいただいた。この学びを止めない姿勢で、諏訪教育会の将来を考えていきたい。「あり方・沿革史委員会」の設置など今後さらに活動が充実していけばと思う。

教育会事業運営への意見要望より 社員の皆さんより意見・要望をいただきました。

貴重な学びの場～学びの曳行～

「学びの曳行」で総合的な学習の時間委員会の実践発表をお聞きした。大変刺激を受け、学校に帰って先生方に紹介した。若い先生方に参加してもらえるよう、来年度もこうした取り組みを大切にしてほしい。

仲間、地域と共に歩むよさ

委員会で「諏訪の歴史ハンドブック中世・近世編」の執筆を進めている。委員会の場で情報交換しながらつくっていくよさを実感した。地域の皆さんに参加していただく場でも、新たな情報をいただくことができた。

財産である横のつながり

「諏訪教育会の展望を語る会」に参加する中で、諏訪にいらっしゃる先生方が同じ課題意識を持ち、同じ場を共有していることや、そこから生まれた横のつながりが私たち一人一人の財産となっていくことを感じた。よりよく新しい形の教育会のあり方を意見交換することができた貴重な場となった。



【小林会長のまとめ】

貴重なご意見をいただきました。この1年間の歩みは確かであったし、この138年間も確かに歩んできたことに自信と誇りを持ちたい。これからも、会員を一人でも増やし、人材育成という意味でも多くの方と一緒に歩んでいけるよう、お声がけいただきたい。現在の会員数を維持する取り組みをお願いしたい。

正副議長をお務めいただいた飯嶋政泰社員(高島小)、早出優里社員(下諏訪社中)のお二人には、1年間に渡って大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

## バスケットボール大会代替として過去4回の大会の掲示物を教育博物館に展示



2月6日(土)に行われる予定だった第68回教職員バスケットボール大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止となりました。しかし、その代替として、教育博物館に展示を行っています。節目となる過去4回の大会(第40回、第50回、第66回、第67回)の様子を知ることができます。5月まで展示している予定ですので、教育会館にお越しの際は、是非お立ち寄りください。